

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

Title	(第 21 章)香港における居住福祉の課題
Author	野村 恭代
Citation	URP 「先端的都市研究」 シリーズ. 16 巻, p.70-72.
Published	2019-03-25
ISBN	978-4-904010-31-0
Type	Book Part
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学都市研究プラザ
Description	包摂都市ネットワークの最前線：東アジア インクルーシブ都市ネットワークジャ パンの活動報告
DOI	

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

第 21 章

香港における居住福祉の課題

野村恭代

1 居住福祉の課題

香港は、「世界で最も住みよい都市」で高順位に位置するなど、世界でも有数の裕福な都市として評価されてきた。しかし、その一方で約5平米ほどの狭小住宅で生活する人々も多く存在する。このことは、以前から指摘されていることではあるものの、実際にその「住まい」を目にしたのは今回がはじめてであり、想像以上の現実には驚いた。

Society for Community Organization (以下、SOCO)の説明によると、失業者や他国から来る貧困層の人々、子どもたちなど、生きることもままならない貧困状態にある人々が、香港の富裕層の陰でいまだに鳥かごのような部屋や間仕切り部屋、ホームレスの状態で生活している。香港は、都市の繁栄とはいったい何であるのか、その課題を如実に表しているように感じる。都市としての資産を増やし、表面的な価値をあげる陰で、経済的にも人とのつながりにも貧困に陥る個人は増加している。

2 スティグマ

間仕切り部屋に住む人々への“スティグマ”の問題も存在する。住む家の形態により、人々や社会から「烙印」を押されるのである。ゴフマンによれば、スティグマのもつ深刻な問題は、社会的に弱い立場の人々や人種的差別、身体的差別、性的差別などのあらゆる差別の根源であることに加え、社会的排他の対象とされた人々が社会の隅に定位置化されることにより、排他される側の人々がそれを受け入れるようになり、次第に社会全体がそれを承知の事実として差別を社会の自明のものとして内包することにある。香港の狭小住宅は、若い層の利用者が多いとの説明であった。若い層の人々への

スティグマを、国としてどのように考えるのか。深刻な都市課題である。

住まいの形態を根拠としたスティグマの課題に、香港をはじめ東アジア諸国はどのように向き合うのか。東アジア全体の問題として国の壁を取り払い議論し、まずは認識を共有しながら課題の本質を捉えることが求められている。

3 「ホームレス」

香港においても、1990年代からホームレス状態にある人々は増え続け、1997年のアジア金融危機により急激に増加した。その後、ホームレス状態にある人の数は2000年頃にピークを迎える。しかし、表出している数はあくまでも「路上」で生活している人々のみの数である。実際にはその何倍にも上る数の人々がホームレスとして生活しているものと考えられる。

写真1のように路上で生活する、いわゆる「ホームレス」の数は減少しつつあるが、香港では依然として住まいの問題は解消されず、ホームレスは居住弱者の課題として続いている。図21-1の場所でも以前に火災事件が発生しているが、住まいの問題は火災などの事故の問題と直結する場合が多くみられる。

高騰し続ける家賃や公営住宅の供給不足により、本来はひとつの部屋であるアパートをさらに間仕切りすることにより、きわめて狭いスペースで過密に居住するケースは増えている。間仕切りは許可を得ずに行われていることがほとんどであるが、このような住宅が一般に市場化しているという実態がある。華やかで煌びやかな都市の片隅には、その日の生活もままならない人々が多く存在している。



图 21-1



图 21-2